

いのちを守る福祉・  
防災都市東京へ!  
都政に憲法を!

# 都民がつくる革新都政

2016年1月15日  
発行 = 革新都政をつくる会  
発行人・中山 伸  
〒170-0005 豊島区南大塚2-33-10  
東京労働会館5F 電話(5978)4031  
ホームページ: <http://kakushintosei.org/>  
E-mail : [info@kakushintosei.org](mailto:info@kakushintosei.org)  
(1部25円、送料は別途)

## 取り戻そう!

# 暮らし・いのち・平和を守る都民が主人公の都政を



わが家は都内の足立区にあるが、最寄りの私鉄駅の次は埼玉県である。

都民でよかつたと涙を流したことがある。

わが家は都内の足立区にあるが、最寄りの私鉄駅の次は埼玉県である。

いぐらぐらいかかりますかね?」予想外の質問に一同は詰まり、私は大いにあわてた。

あの日あの時の感動  
早乙女 勝元

\* 青い空 \* 私は外野席ですから、昨年5月、いわゆる安保法制が閣議決定された翌日に行われた記者会見でそのことを聞かれた舛添知事が発した言葉について、「外から見て、いるという立場に徹したいと思っています」とも述べて記者会見を打ち切っています。同じ会見では別の記者から横田基地へのオスプレイ配備について聞かれ「安全保障政策は国の専管事項ですから」とはぐらかして記者と云いあいになつてゐるところが、である。暮れの12月になって知事は新国立競技場の建設費を448億円負担すると表明。「国立の施設なのになぜ都が負担するのか」「そもそも地方財政法に違反するのではないか」などの疑問が出るのは当然のこと▼都議会で都が支出する法的な根拠を質問されて舛添知事は「大臣に会ったとき、これから必要な法律をつくるといつていた」と答弁。行政は法律に基づいて執行されていると思っていた都民も「びっくりばんや」▼本音を知られたくない時は「あいつのものに、場合によつてはさきと外野席からグランドに降りてきて、いわれたとおりに球拾いもやれたりといつたこの人のボリシィは奈辺にありや(木)

1970年8月5日、私どもは丸の内の都庁舎口で伊に集まって、その場で「東京大空襲を記録する会」を結成した。10年を一昔というなら四百余も前のひとで、会の発案者の私は30代だった。

私どもの会長は作家の有馬頼義氏で、事務局長は評論家の松浦總三氏、そして会の目的、「東京大空襲・戦災資料全五巻の編集刊行」に賛同したメンバーである。

松浦氏の声で、2階の都知事応接室へ。室内には大勢のマスコミ取材班が待機していた。やがて都知事の美濃部亮吉氏が、足どりも軽く現れた。有馬代表が要望書を手渡すと、都知事は一通り目を通したあとでい

「では、参りますよ!」  
驚いた様子でもなくうなずいた。  
これで、すべてが決まった。都の助成は1億円まではいかなかつたが、都知事の一聲で都の協力がつくになつたのだった。ああ、都民でよかつたと、私は感動した。今振り返れば、都知事が民主的な学者であり、社共両党の支持で誕生した革新都政だったからこそその快挙だつたといえよう。

松浦氏の声で、2階の都知事応接室へ。室内には大勢のマスコミ取材班が待機していた。やがて都知事の美濃部亮吉氏が、足どりも軽く現れた。有馬代表が要望書を手渡すと、都知事は一通り目を通したあとでい

つた。

「東京大空襲の惨状は、よく知っていますよ。一夜

に10万人もが死んだなんて、信じがたいことでした。

ひと、声を大にして訴えたい。

加の大資料集が完成、菊池寛賞ほかを受賞した。あの選挙まであと2年、憲法とくらしを守る革新都政をぜひ



